



七松小学校 学校だより

平成28年度
7月号
尼崎市立七松小学校
学校長 森本秀子

☆ ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>

体育大会のご参観，ありがとうございました

7月に入り、一学期も残すところわずかとなりました。梅雨のために雨が続き、蒸し暑い毎日ですが、子どもたちは暑さに負けないで、元気に学習に励んでいます。

さて、6月11日の体育大会には、たくさんの保護者や地域の皆さまにお越しいただきました。無事終了できましたことに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。厳しい暑さの中で、また短い練習期間ではありましたが、一人ひとりの子どもが、仲間と力を合わせて精一杯頑張っている姿は、とても立派でした。入学、進級してわずか2ヵ月余しか経っていませんが、十分にその成果を披露できたように思います。ご家族や地域の皆さまの温かいご声援に心より感謝いたしております。

さて、今月20日は一学期の終業式。いよいよ夏休みに入ります。今年の実質、42日間の夏休みが始まります。長期の休みでしか体験できないようなことに取り組み、一回りも二回りも成長した子どもたちを、9月の始業式で見られることを願っています。

1学期のご支援とご協力に厚くお礼申し上げます。2学期もよろしくお祈りします。

一学校ホームページ『校長室の窓』から

響き合う授業～福祉教育～

6月21日学校に、花を生けて下さる、地域の田川さんが4年生対象にお話をして下さいました。田川さんは工場にお勤めされていた時に、左手を失うという大きな事故に遭われました。当時、娘さんは4歳でした。無くなった左手に義手をつけて子育てや仕事、家事にと頑張っておられました。娘さんが11歳の時に書いた作文に「冬はお母さんの一番大変な時です。義手をはめているので、『しもやけですごくいたい。』と言います。でも、すいじ、洗たく、冷たいのに全部してくれます。私は、がんばりやお母さんが大好きです。

それにお母さんは、なわとびもできます。できた時、私はみんなのお母さんと、同じことができたんやと大喜びでした。だから、体が不自由でも、やれることはせいっぱいやってほしいです。

(略)そして、この作文は相生市長賞をいただいたそうです。今では、娘さんも2児の母になりました。この日、たくさんの質問が4年生からありました。丁寧に答えていただき最後は、一人ひとり義手を持たせていただき、義手をはずした左手と握手をしていただきました。教室に帰った子ども達は口々に、「田川さんは『事故に遭ったことよりも、事故のお蔭で今の自分がある。人の気持ちができるようになった。』と言われていたことが、すごい。」と言っていました。響き合う大切な授業となりました。ありがとうございました。



音読集会で全校児童がよみました

詩の心を感じ、表現することは難しいですが、1年生から6年生まで、心をこめて大きな声で読みました。やなせたかしさんの『なにかをひとつ』は交互に読み合い、学ぶ事のよろこびが伝わってきました。朝の会で毎日読んできた成果が、一人ひとりの声に表れていましたね。